



平成 29 年度 海田中学校区小中連携通信 No. 5
海田南小学校

1 月 19 日（金）授業研究・研究協議会

1. はじめに

広島県西部教育事務所教育指導課指導主事の吉原知美先生を講師としてお迎えし、第 3 回海田町「学びの
変革」推進協議会兼第 8 回 21 世紀型能力育成事業（海中校区 2 1）授業研究会を行いました。

平成 30 年度からの「課題発見・解決学習」の全県展開に向けて、「学びの変革」パイロット校事業実践指
定校 2 年目である本校も含め、海田中学校区や海田町内の学校が今後どのように取組を推進していけばよい
のかを改めてご示唆いただきました。各学校で、4 月までの残り 2 ヶ月間、開発単元の年間指導計画への位
置付けやカリキュラムの見直し、日々の授業改善に向けて、共通認識しながら取組を進めていきましょう。

2. 研究授業

(1) 単元名（総合的な学習の時間）

「南小 玉手箱」を作ろう

～3-1 タイムマシンで見つけた南小～

(2) 授業者

第 3 学年 1 組 担任 坂本 由香 教諭

(3) 授業について

【単元で付けたい力】

- ① 6 年生に南小のことを知ってもらうための情報を主体的に見付けようとする。(主体性)
- ② 学校の歴史などを伝える活動をするために必要な情報を収集したり、情報を関連付けたりしながら「南小 玉手箱」に入れて紹介する内容を考え、工夫して表現することができる。(思考力)
- ③ 活動を通じて、学校への愛着を深めながら、学校の歴史などを 6 年生に伝えられる喜びを感じ、自分の成長に気付くことができる。また、それを今後の学習に生かそうとすることができる。(自己理解)

【本時の目標】

南小の歴史などに興味をもち、卒業する 6 年生に、南小についてもっと知ってもらうために、「南小 玉
手箱」を作ろうという単元の学習課題を設定することができる。

社会科「今にこのころ昔とうつりかわり」の単元や道徳の時間「学校のさくら」【価値項目 4- (2)】
との関連を図りながら、海田南小学校の「ひみつ」を調べ、6 年生で紹介するという相手意識や目的意
識が明確な授業となっていました。6 年生は、南小についていろいろなる事を知っているだろうという予
想とは反対に、南小の歴史等について知っている児童は少ない（6 年生への事前アンケート）という結



果から、課題の必然性が生まれていました。また、開校当時の学校の表札があったり、地域に住んでお
られる先生や南小の卒業生である先生をゲスト・ティーチャーとして昔の南小校区についての話を聞い
たりしたことにより、児童の意欲が高まった授業でした。授業者である坂本教諭の色々な技が随所に見
られた工夫のある授業だったと思います。

3. 研究協議会

協議の柱：「深い学び」につながる教師の発問や支援のあり方は適切だったか

(1) グループ協議会

上記の協議の柱をもとに、グループ協議で出された課題をいくつか紹介します。

- ・ 6 年生が知らないこと、6 年生が知りたいことのアナケート結
果から選んでいる児童が多かった。6 年生のアナケート結果を
出す前に、3 年生がどれだけ知っているか、何を知りたいかを
考える単元構成にした方がより主体的な学習になったのではな
いか。
- ・ 調べたいことが既に黒板にたくさん出ているので、それを発表
に含める助言を早くしてあげればよかった。
- ・ 南小にしかないものを調べ、調べたことを今後どうするかを検討してみてもどうか。相手意識を後半
にもって行って、長いスパンで計画していくと良いのではないか。
- ・ ワークシートの書き方の工夫として、ペアトークをしてから書くとき書きやすくて良いのではないか。
また、視点を明確にするのも良い。



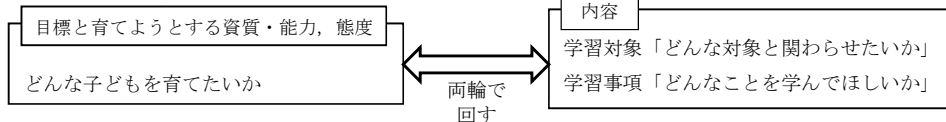
(2) 指導講話（西部教育事務所 吉原 知美指導主事

「主体的な学び」を促す日頃の授業改善の視点

- ① 児童生徒の意欲を喚起させる導入の工夫が行われているか。
- ② 教師が話し過ぎず児童生徒の言語活動を充実させているか。
- ③ 目標を達成させるために必要な協働的な学びの場を適切に設定し
ているか。
- ④ 多様な考えを引き出す問の工夫が行われているか。
- ⑤ 本時の目標に対応したまとめを自分の言葉で表現させているか。



○「記憶に残る学び」に



4. 最後に

「学びの変革」パイロット校事業は今年度で終了になりますが、ゴールではありません。平成 30 年
度の「課題発見・解決学習」全県展開に向けて、今がスタートです。4 月からの実施に向けて、各校
で、準備をしていきましょう！！